

高岡龍谷高校生による第十次支援班を派遣

去る八月二十八日から三十日にかけて高岡教区第十次支援班が派遣され、高岡龍谷高等学校の生徒を中心に八名が福島県・宮城県において支援活動を行った。

今回の支援活動は、福島第一原発事故で不自由な避難生活を余儀なくされている子どもたちに、図書に親しんでもらう機会を作ると、高岡龍谷高等学校の生徒が集めた児童向けの図書や絵本を、仮設住宅へお届けすることを目的に企画されたもの。

一日目は吉倉公務員宿舎（福島市吉倉）を訪問し、絵本・児童書八〇〇冊余りと縄跳び・クレヨンを贈呈した。この吉倉公務員宿舎は、全村避難中の福島県飯館村の未就学児のいる世帯が中心に避難している。

二日目は東北教区ボランティアセンター（仙台市青葉区）の斡旋で、甚大な津波被害を受けた若林区にある田畑の流入物の撤去作業に従事した。既に重機で大きな流入物は取り除かれているものの、細かいガラス片などは人手で取り除くしかないため、スコップや熊手で表土を掘り返し、ガラスやビニール片を取り除く作業を行った。車のヘッドライト、家庭用照明器具などの大量のガラス片や建材、数十キロもある側溝の蓋が埋まっており、この地を襲

った津波の凄まじさを感じさせるものがあった。

三日目は一日目と同じく福島県飯館村から避難してこられた方たちが避難生活を送る松川第二仮設を訪問し、児童書や実用書など一六〇冊余りを贈呈した。

管理人さんに敷地内を案内していただき、ほとんどの家で玄関先にプランターで花や野菜を作っておられ、「私たちは今まで農業で生きてきました。何もしないということには慣れてないので、こうやって



プランターで家庭菜園をやっています。」

仮設住宅は急造のものが多く、ここ松川第二仮設でも仮設住宅の床が湿気で歪んできているそうで、冬の隙間風など生活環境が悪化していくことを懸念されていた。このままいくと、今の仮設はあと二年くらいで住めなくなるとのことであった。

今回参加した龍谷高校の生徒は、「私たちが体験したこと、知ったことを学校の皆にも伝えたいし、できれば今度は学校の皆と一緒に来たい。」と話していた。高岡教区では今後も引き続き支援活動を続けていく予定である。

「ありがとういたてタオル」 ご協力いただいた皆さまへ

以前ご案内しておりました仮設住宅支援企画「ありがとういたてタオル」ですが、予想を遥かに上回る3022本余りのご注文をいただき、材料用タオルも4000本をお預かりいたしました。皆さまのあたたかいご協力に厚く御礼申し上げます。

現在、出来上がったものが届き次第、順次お配りしておりますが、一本一本手作りのため、お待たせする場合がありますことをお詫び申し上げます。お問い合わせは高岡教務所（担当岡西）までお願いいたします。

「仏婦・寺女合同実践運動研修会」を開催

～雨晴温泉磯はなび～

八月二十八、二十九日、仏婦連盟・寺女連盟による合同の実践運動研修会が開催され、百名近くの参加があった。この様子を寺女連盟副委員長の土合みつるさん(射水組光源寺)にご報告いただきました。

暑さをものとせず百名近い参加者で実践運動研修会は開かれた。研修「葬儀から問われているもの」の班別協議会では、家族や地域社会の人間関係が薄れ、仏教が置き忘れられた葬儀の形式には不安を感じ、次世代へこれまでのあたたかさを伝えたいと願いながらも、世の中の大きな流れの中で自分流の方法を進めていくことは大変難しいと感じてい



るといふ意見が多かった。

その後、岡西法英先生には、葬儀では亡くなった方の家族が、これまで見えなかった多くの人の心に支えられ、知らない人から心配され、許してもらい、どれだけ迷惑をかけてきたかというところに目を向け、絆の

網を再確認し、宗教によって絆の原点を思い起こし、命の重みを改めて受け止める大切な儀式であるとお話いただいた。葬儀は家の喪主が責任をもって執り行われるが、家がなくなれば式を行う必要もなくなる。死者の甲いをするのが人間のしるしであるというお話が心に残った。

研修「御同朋の社会とは」では、まずお寺の運営や教団の制度の中で、また、自分自身や僧侶、坊守、門徒同士の中で感じる差別感について話し合った。

「在家」や「障害」などといった言葉のぞんざいな使い方、男性主体の社会における女性の存在、いざ結婚となると頭をもたげる部落差別意識、根深い類聚制度、気づかないうちに自分中心の感じ方でき、差別している一人一人のその意識が社会事象につながっていくのではないかと発表された。

伯水永雄先生からは、「社会に対しても自分自身に対してもこうした差別意識が感じられなければ、自分は加差別側に立っているかもしれないという自覚のもと、できることから改めていかなければならない。差別なしで生きていくのは難しいのではなく、差別をなくす努力をしているがなかなか難しいということを確認しあえる仲間を増やすことが自分を育てることになる」というご助言をいただいた。そのことを胸に努力していきたいと思った。

本山杯野球大会が開催される

八月二十六日(日)、第四十九回本山杯寺族青年野球大会(高岡教区担当)が高岡龍谷高校グラウンドにて開催され、スポーツを通じて寺族青年の親睦が図られ、熱戦が繰り広げられた。今大会も例年通り、富山教区本願寺クレシヤース・高岡教区野球部に加え、京都より本願寺野球部を迎え三チームで、計三試合が行なわれた。

午前九時の開会式に引き続き、第一試合の本願寺対高岡教区で幕があげ、続けて、第二・第三試合と試合を行った。(結果は昨年に続き本山二勝、富山教区一勝、高岡教区二敗)

また、来年は五十回記念大会であり、近年勝ち星のない高岡教区は来年こそと秘かに雪辱を期している。

教務所では今年度もカレンダーの注文を受け承ります。

お電話で注文頂ければご寺院宛に配達を致します。担当の高島までご連絡ください。

法語カレンダー . . . 150円

ほのぼのカレンダー . . . 140円

月々のことば . . . 700円

心に響くことば . . . 120円

御同朋の社会をめざす運動のコーナー

第一、一回僧侶研修会報告

抜本改定された宗法の施行に伴い、これまで進めて参りました基幹運動は「御同朋の社会をめざす運動」に名称変更されました。しかしながら、宗派の制度や組織が変革されたからといって寺院をとりまく状況が大きく改善されるわけでもなければ、問題点が解決されるものでもありません。日常の法務の中で私達僧侶一人ひとりがいかに考え、自己変革を遂げていくかが問われているのです。

「真宗の役割 社会的活動とみずからを改めること」のテーマの下で行われる全三回の高岡教区「御同朋の社会をめざす運動」推進僧侶研修会の前半部が、九月三日、四日の両日、熊本教区から斎藤真先生（「財」同和教育振興会理事）を講師にお招きして開催され、のべ約百二十名の出席者の間で熱心な討議が行われました。

まず、宗門の目的が旧宗法では「人類永遠の福祉に貢献すること」、新宗法では「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献すること」と記されていることを受けて、私たちは本当にその目的のために動いているだろうか、「教えを広める」という手段をいつの間にか自己目的化してないだろうか、という問題提起がありました。そして、「私たち」が、いつの間にか、本来の目的に逆行した役割を果たしている」との指摘が部落差別の問題であったことを、書籍『真宗王国 富山の仏教』を例に考察した上で、社会の諸問題に取り組みとは、真宗の教えに生きる者にとってどのような

ことなのかが各班で話し合われました。

「業・宿業」に代表される「あきらめ」を説いてきた教
学、浄土を死後の問題のみのこととして扱うことにより、
現実の生き方は世間に従うことを是とする「真俗二諦」の
教学を、改めて見直さねばならないという声が上がりました。
一方では、「信心と社会活動の関係がわからない」「な
ぜ部落差別なのかがよくわからない」という意見もありま
した。


ご講師は、寺院という「場所」に焦点を当てて、「真宗」という教えによって「光といのち」に出遭う場所に寺がなっているだろうか、と問いかけられました。具体的な「いのち」の様々な問題に直面しているご門徒さんが、そのことを語り出せる場に果たして寺はなっているのか。

ともすれば世俗の論理に埋没し、意識的にせよ無意識的にせよ、差別の論理に加担する場になっているのではない
か。宗祖の「非僧非俗」という論理は、僧侶である我が身を問いただすと同時に、自らが住まう社会も問い直す視座をもたらしものだとのご助言をいただきました。

この僧侶研修会は九月十五日（土）午後一時半より、三回目の研修会を行う予定です。ご講師は大阪教区の武田達城先生です。未出席の方々には是非、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

【教区同朋運動企画専門委員会委員長 津山 玄亮】

これからの日程 (9 / 2 1 ~ 1 0 / 2 0)

9月		
21	公聴会 聖典セミナー (6 回目)	
25	サンセリテ・ピハラー活動 高寿会研修旅行	
26	長寿苑ピハラー活動 教区コーラス練習日 会計検査 (井波別院)	
27	会計検査 (福光教堂) 仏婦広報委員会 連区仏社協議会 (~ 2 8)	
28	会計検査 (教務所)	
10月		
3	講社連盟役員会 寺青役員会 雨晴苑ピハラー活動	
4	ヤスクニ委員会	
5	藤園苑ピハラー活動	
7	骨董市 (~ 8 ・会場貸し)	
9	教学開発室 教区コーラス練習日	
10	仏婦連盟教材委員会	
11	常例法座	
16	教区コーラス練習日	
18		門徒総代研修会 (~ 1 9 ・福井)
20		

ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 (K N B) ・ 7 3 8 kHz.
毎週土曜日 (本山制作) 午前 6:15 ~ 6:25
第 2 ・ 4 日曜日 (富山・高岡制作) 午前 6:00 ~ 6:10

9 / 15 (土) : 森田 眞円 氏 (京都女子大教授)

「人差し指の教え」

9 / 16 (日) : 玉池 弦 氏 (富山教区・浄蓮寺)

9 / 22 (土) : 釋 徹宗 氏 (大阪府・如来寺)

「称ははかりというころなり」

9 / 23 (日) : 未 定 (富山教区)

9 / 29 (土) : 釋 徹宗 氏 (大阪府・如来寺)

「内に虚仮を懐ければなり」

10 / 6 (土) : 義本 弘導 氏 (大阪府・浄行寺)

「幸福の国ブータン」

10 / 13 (土) : 義本 弘導 氏 (大阪府・浄行寺)

「『寄り添う』ということ」

【西本願寺高岡会館10月の常例法座】

ご講師: 竹 中 了 祥 氏
(富 山 教 区 ・ 妙 順 寺)

ご講題: 『み教えにであう』

午後 1 時 2 0 分頃 からビデオ上映、2 時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (175 袋) 7, 000 円

・大 箱 (45 袋) 2, 000 円

・小 箱 (16 袋) 900 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1298

耳浦 康真 (本誓寺) Tel. & Fax. (0766) 23 - 9822

編集後記

妊娠十週目の妊婦からの血液を調べるだけで胎児の
ダウン症など染色体の異常が九十九%の確率で判定で
きる出生前検査があるそうです。すでにアメリカでは
去年から検査会社で実施されています。

これについてみなさんはどのように考えますか？私
はとても難しい問題だと思えます。「命の選別」「障害
者差別」等の問題はもちろんなこと、また、妊娠間も
ない女性や家族にとって難しい選択をせまられるので
はないかと思うからです。

いろいろな考え方があってしかるべきだと思います
が、医学の進歩は時には、未成熟である私たちにとつ
て難しい問題突きつけることがあるのだと考えさせ
られた出来事でありませう。